

令和8年度 西伊豆町教育委員会第3回定例会

- 1 開催日 令和8年6月17日（水） 13:15～
- 2 場 所 西伊豆町中央公民館 1階 講義室
- 3 出席者 森真治教育長、高橋浩委員（職務代理）、影山やえみ委員、眞野有吏委員
長島宗紀委員
〔事務局 佐野浩正、山本諭、萩原宏実、齋藤英知〕
- 4 欠席者 なし
- 5 傍聴者 なし

教 育 長：本日の出席者は、5名です。過半数に達していますので、ただ今から令和8年度第3回の定例会を開催いたします。

議事録の承認についてですが、令和8年5月13日開催の令和8年度第2回定例会の議事録については、私と眞野委員が確認し署名いたしましたので、ご承認いただいてもよろしいでしょうか。

（委員：全員異議なし）

教 育 長：ありがとうございます。

続きまして、今回の議事録署名委員ですが、影山委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。（影山委員：了解）

教 育 長：ありがとうございます。

それでは、議題に入ります。日程3の協議に入ります。

「令和7年度西伊豆町教育委員会の自己点検・評価報告書の内容について」を議題とします。事務局から説明をお願いします。

佐 野：それでは、令和7年度西伊豆町教育委員会の自己点検・評価報告書について、ご説明させていただきます。こちらは、委員さんの方に、お手元に配付させていただいてございます。資料2の西伊豆町教育委員会評価委員会設置要綱第2条の規定に基づき、西伊豆町教育委員会の自己点検結果を評価委員に提出するため、別紙「西伊豆町教育委員会の自己点検・評価報告書」の記載内容についてご意見をいただきたく提案するものでございます。

それでは、横の「令和7年度西伊豆町教育委員会自己点検・評価報告書（案）」をご覧ください。1ページをお願いします。見開いた一番上に「自己点検・評価の考え方」ですが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について自己点検・評価を行うものでございます。西伊豆町教育委員会では、令和7年度の活動及び施策の自己点検及び評価を行い、教育委員会の責任体制を明確化するため、「教育委員会の活動」、「教育委員会が管理・執行する事務」、「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」に分けてございます。「教育委員会の活動」では、教育委員会会議や教育委員研修などの教育委員自身が行っている活動についての点検・評価でございます。「教育委員会が管理・執行する事務」については、西伊豆町教育委員会の

関連規定に則り、教育委員会が責務を果たすべき事項について自己点検を行います。

「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」については、資料3の「令和7年度西伊豆町教育行政の基本方針」にもとづき施策を基に点検・評価を行っております。

次に実現度の見方ですが、Aが達成している。90%以上。Bが概ね達成している。70%程度。Cがほとんど達成できていない。50%程度。Dが達成していない。という4段階の評価基準に基づいて評価をさせていただいております。

この後、担当から説明いたしますので、大項目ごとに、皆さんのご意見をいただきたいと思っております。

教 育 長：それでは、1 ページ目の大項目の1「教育委員会の活動」について、説明をお願いします。

佐 野：ご覧のとおり1 ページ目の大項目、教育委員会の活動、中項目（1）教育委員会会議の運営改善、小項目につきましては、教育委員会会議の開催日数でございます。評点につきましてはAランクにしております。毎月1回の定例会を予定して行いました。7年度につきましては、定例会10回の開催をいたしました。教育委員会の内容につきましては、会議では規則の改正または、教育行政の基本方針、教育委員の任命、職員の人事案件など、審議を行いました。続きまして小項目の下です。教育委員会会議の運営上の工夫です。これについてもAとしてございます。年間予定を第10回の定例会で配布し、できる限り委員の皆様が参加するように努めさせていただきました。その会議の資料ごとにですね、案件に対する理解を含めていただくような形にいたしました。続きまして、（2）の教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信でございます。小項目につきましては、教育委員会会議の公開の状況ということでございます。ここについては、ランクはAとさせていただきました。開催日は、おおむね2週間前までに定例会の招集告示をしております。次です。会議録の公開でございます。広報、広聴の状況です。これについてもランクをAとさせていただきました。議事録はですね、定例会開催のおおむね10日までに、町のホームページに掲載させていただいております。続きまして（3）教育委員会と事務局との連携、教育委員会事務局との連携ということでございます。項目というのは、実現度は、Aということで行っております。ここについては、例年どおりの形になっておりますのでご覧ください。（4）です。教育委員会と首長との連携でございます。ここにつきましては、総合教育会議という形を年2回、7年度に行いました。首長と教育委員との意見交換会という形で行いました。第1回目の会議につきましては、組合立中学校設立に向けて、認定こども園候補地の調査結果、それから教育施設全般についてお話をいたしました。第2回目の時はですね、令和8年度、西伊豆町教育委員会の行政の基本方針案ということで意見を交換いただいております。続きまして（5）の教育委員の自己研鑽、研修等での自己研鑽です。評価はAにしております。令和7年度についてはですね、研修会の参加はありませんでしたけれども、教育委員会の定例会や、関係法令、先進地事例などの確認を通じまして、教育行政に関する理解の向上に務めさせていただきました。続きまして、

(6)でございます。園・学校及び教育施設に対する支援、整備です。園と学校訪問でございます。これについては評価をAとさせていただきましたが、例年どおり、教育委員会の定例会に併せて、学校訪問をさせていただきました。続きまして、所管施設の訪問でございます。評価はAとしました。教育施設環境の現状を目的に園・学校の視察を実施いたしました。社会教育施設、または図書館及び旧田子中の文化展の視察を実施いたしました。次のページをお願いします。2ページ目でございます。ここまでですね。

教 育 長：大項目1の教育委員会の活動につきまして、何かご意見、ご質問がありましたらお願いします。いかがでしょうか。

高 橋：(4)の首長との文言の中での、調査結果について、教育施策全般って区切った点なんだけど、ここは丸かな。

佐 野：そうですね。そこで点で、つながってる状況ですので、教育施策の全般についてで、丸にします。

佐 野：言い回しなど、誤字脱字等がありましたら、ご指摘のほどよろしく願いいたします。

教 育 長：はい。これについては、丸をつける。

そのほか、気になるところ等。ご意見、ご質問いかがでしょうか。いいですか。

教 育 長：それでは、2ページの大項目の2「教育委員会が管理・執行する事務」についてお願いします。

佐 野：ご説明申し上げます。大項目2、教育委員会が管理・執行する事務でございます。中項目、小項目一緒ですので、中項目を読み上げます。(1)教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関することについてでございます。これにつきましては、1件であります。令和8年度の教育行政の基本方針ということで第9回定例会で協議いたしました。(2)教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定及び廃止に関することでございます。これについては、6件ございました。6件の内訳はご覧のとおりになっております。(3)です。教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関することです。これについては、令和7年度の実績はございませんでした。(4)、教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他人事に関することでございます。3件ほどございました。教育長の任命について、第9回定例会において審議し、森教育長の任命が可決されました。令和7年度末の学校長等の人事異動の内申について、第9回定例会において審議し、可決されました。また、これは令和8年度の教育委員会の事務職員の人事異動に対して、第10回定例会において、議案上程を可決しました。ここ令和7年度末って書いてます。7年度でいいね。続きまして(5)に移ります。教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関することでございます。これは1件という形になっております。続きまして、(6)教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ることについては、特段ございませんでした。(7)県費負担職員のサービスの監督の一般方針を定めることということで、これにつきましても実績はございませんでした。(8)人事の一般方針を定め及び懲戒を行うことでございます。令和7年度については方針及び懲戒を行った実績はございませんでした。(9)学校、公民館、図書館の敷地の設定及び変更を決定することについてでございますが、これについても、7年度は実績がございませんでした。(10)です。教育委員会の所

管に属する各種委員会の委員の任命または委嘱に関することでございます。1件ございました。第1回定例会におきまして社会教育委員会の委員の委嘱を行いました。(11)でございます。通学区域を定めることでございますが、令和7年度については、実績はありませんでした。(12)校長・教員その他教育職員の研修の一般方針を定めることでございます。これについては、例年どおりで各校長、教員が出席した研修会をここへ掲載してございます。

教 育 長：大項目2の教育委員会が管理・執行する事務につきまして、何かご意見、ご質問ありましたらお願いします。

高 橋：言い回しでいいですか。

佐 野：いいですよ、言ってください。

高 橋：(4)の、教育長任命、可決されましたけど、これは、議会で諮るわけだね。

佐 野：そうです。ここでは、教育長が任命でなく、選定か、そのほかの言葉です。議会は任命なんです。

高 橋：最終的に議会で任命される。

佐 野：そうですね。ほかの言葉で考えます。

高 橋：上程とか。

佐 野：分かりました。文言を直させてください。

高 橋：もう一つは、12番の斜線なんだけど、これって必要なの。項目としてはあるわけか。

佐 野：例年、ございましたね。それで斜線って形をやってたみたいなんですけど。

教育職員の研修の一般方針を定めることっていうことの項目があって、今までずっとこの研修会を計上してきたような形でしたかね。ここ斜線について、もう1回再度確認させてください。

教 育 長：そのほか、いかがでしょうか。

長 島：5番ですけど、この1件っていうのは、これは何をしたんでしょうか。

佐 野：先進地事例なんかでなんか1回出かけたこと。あったんですか。

高 橋：みんなでいった。

佐 野：その関係の1件っていうか。

長 島：ちょっとそれがちょっと分かりづらいですね。これだけは、言葉だけ読むと何もしてないのかと思います。

佐 野：参加しましたって、そこに入れましょうか。そうすれば、この1件が何にかって読み取りますので、直させてください。

教 育 長：それでは、3ページの大項目の3「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」ですが、ここは、項目がたくさんございますので、小分けにしたいと思います。

まず、中項目の(1)の「確かな学力と自立する力を育む教育」について、事務局から説明をお願いします。

萩 原：小項目、特色ある学習の推進です。ランクはAとさせていただきました。点検評価ですが、学校経営目標や児童生徒の学力調査結果などに基づき、予算の範囲内で学力向上の対応策や授業力を高めるための研修などを検討し、学校ごとに特色ある学校づくりを推進しました。小学校2校においては、教育版レゴEVなどを活用したプログラミング教育を実施し、プログラミングに関する知識を習得しただけでなく、プログラミングを通して、問題解決のため

の発想力も養われました。仁科小学校、賀茂小学校において、演劇やガラス工芸体験を実施し、芸術に触れる機会をつくったほか、各小学校で漢字能力検定の受験など、学力向上につながる取組を実施しました。西伊豆中学校では、キャリア教育としまして、「未来をつくるみなさんへ」をテーマに、俳優の宮城嶋遥加さんを迎え、将来のことを考える機会を創出しました。個別の習熟度に応じて、問題が変わるＡＩドリル「ドリルパーク」を活用し、夏季冬季休暇中の受験対策講座・学力検査を行い、生徒個人に合わせた指導を実施することができました。続いて小項目、情報教育の推進です。こちらもＡランクとさせていただきます。１人１台のタブレット端末を活用し、学校における授業方法の工夫改善や家庭学習での活用により、充実した学習の実施につながりました。また、個別の習熟度に応じて、問題が変わる教材ソフトＡＩドリルを全校で運用するなど、タブレット端末を使用した授業の推進を図りました。授業におけるＩＣＴの活用を推進するため、ＩＣＴ活用研修会を開催し、各校における課題の共有を図るとともに、課題解決を図りました。７年度末には、タブレット端末からクロームブックへ端末の入れ替えを行い、教職員への研修を行いました。続いて、国際教育交流の充実です。ＪＥＴプログラム（外国青年招致事業）のＡＬＴ２人と会計年度任用職員のＥＬＴ１人の計３人を任用し、英語教育の充実に努めました。長期休業中にはイングリッシュサマーキャンプ２泊３日に２６人の小中学生が参加して、タイダイ染めや海外の様々なゲーム（電子ゲーム）、食事などを体験し、海外の文化を学びました。ＡＬＴについては、外国語教育推進委員会を開催し、各校の活用事例や今後の活用の仕方について協議・検討しました。令和６年度から、台湾との交流事業を復活し、中学生９人が台湾高雄市のホストファミリー宅で２泊３日のホームステイを経験しました。最終日には、台湾の福誠高級中学校で授業体験を実施しました。帰国後は校内発表会を開催し、生徒にとって大変有意義な事業を展開することができました。続いて、複式学級への対応です。評価はＡとさせていただきます。児童数の減少に伴い、賀茂小学校の４、５年生と仁科小学校の３、４年生が複式学級となりましたが、標準的な教育水準確保のため、全額町費負担による複式学級補助教員を配置しました。これにより、通常学級とほとんど変わらないきめ細やかな教育を図ることができました。

山 本：続いて、社会教育係です。社会教育の係長が別途、ズーム会議中ですので、前任の私のほうから読み上げさせていただきます。家庭教育の充実につきましては、子供の健全な育成を行う上で重要な役割を担う家庭教育の充実を図るため、町内の園・小・中では家庭教育学級を設置し、保護者同士が自らできる活動を模索し、企画立案して計画的継続的に活動を進めました。教育委員会としては、家庭教育学級への補助金を交付し支援を行いました。評価はＡとさせていただきます。

萩 原：学校教育係です。総合学習の推進です。評価はＡとさせていただきます。各学校において、学年ごとに総合的な学習の時間のテーマを設定し、地域に密着した体験活動や学習を実施しました。自然や地域の人々とのふれあいを通して、地域への興味、関心や理解を深めるとともに、郷土への愛着心を育むことができました。また、西伊豆中学校では西豆地区の２中学校と松崎高校が連携して西豆学に取り組み、「西豆を体験しよう」や「職場体験」を合同で実施したほか、中高合同発表会を開催しました。これらの取組により、地域への理解を深めるとともに、中高連携による学びの充実を図ることができました。小項目一貫教育の推進になります。評価はＡとさせていただきます。松崎高等学校の西豆地区２中学校による連携型

中高一貫教育では、様々な連携事業を実施し、生徒同士がともに学び、考え、協力することで成長につなげることができました。また、町一貫教育研究会を中心に、園から中学校までを見通した研修会や連携事業を実施し、一貫性のある教育の推進を図りました。さらに、松崎高等学校への進学を支援するため、給付型奨学金制度を継続して実施し、令和7年度は新たに2人を認定しました。既存の認定者と合わせて6人が給付を受け松崎高等学校の魅力向上と進学支援に寄与しました。続いて幼児教育・保育の充実になります。評価はAとさせていただきます。町内の認定こども園では、それぞれの地域の特性を生かした特色ある教育目標持ち、幼児教育の狙いとする「健康、人間関係、環境、言語、表現」や、基本的生活習慣、食育、家庭や地域との連携のほか、一貫性のある幼少接続を目指し、小学校入学までの3年間の教育課程を細分化し、個々の成長に合わせた取組を行いました。また、園外活動により、幼児の五感を刺激しながら成長につなげたり、2園の園児交流や小学校児童との交流、ALTによる英語活動の時間を設けるなど、様々な人との関わりを持つことで、好奇心などを育むことができました。令和6年度から両園において、保護者による1日保育体験を実施しています。令和7年度は71人の保護者の参加がありました。この体験を通じて、我が子の発達やこれからの接し方、保育者の仕事の大変さについての理解を深めていただくことができました。

教 育 長：3～4ページの中項目（1）について、ご質問ありましたらお願いします。

長 島：家庭教育の充実で、最近はどんなことを行っていますか。

山 本：学校によっていろいろありますけども、賀茂小学校ですと、実は、一緒に親子でやろうでなく、いちご狩りにいったりとか、仁科のほうは、親子で何か一つのものをつくることをやっています。

教 育 長：去年はみそづくりと、染め物を親子で体験したかな。

長 島：なかなかね、ネタがなくなってきたと伺ったので、何をしたか伺いました。

教 育 長：気になるところが、あれば言っていただければ、よろしいでしょうか。

それでは、4ページの中項目（2）から5ページ、中項目（3）までの説明をお願いします。

山 本：中項目（2）地域環境づくりの推進ですけども、こちらについては、青少年の健全育成に関する施策の調査審議と行政・関係団体相互の連絡調整を図るため、青少年問題協議会を設置し2回の会議を開催しました。協議会では、夏季冬季の街頭指導、青少年健全育成標語の募集掲載などを行い、地域全体で青少年の健全な心身を育む環境づくりに心がけました。また、令和4年度から開催している子ども議会は、各小学校5、6年生から、議員として、すいません。これ7人と書いてありますが、6人が正しいです。仁科小学校から議長として、1人が参加し、町に対して思っている疑問や要望を一般質問形式で町長に投げかけ、町長が答弁しました。なお、各校の6年生は議場の傍聴席から、5年生はZ o o m配信により、各学校で傍聴をしました。模擬議会の体験を通じて、子どもたちが町の課題について自ら考え、主体的に生きるために必要な能力の育成につながりました。評価は、Aとします。続いて、青少年活動の推進です。令和3年度から町内開催となった、わんぱくクラブでは、以前は西天城高原牧場の家に宿泊し実施しておりましたが、昨年度からは、宇久須キャンプ場のキャンプサイトにテントを張り、18人の児童が参加しました。今年度は20人の募集に対して、26人の応募があり、抽せんとなるほどの人気でした。参加した子供たちは、シーカヤックやキャンプ等、町の自然の魅力を体験する貴重な機会となりました。わくわく体験村子ども体

験会は昨年度から20人以上に参加者が増え、町内の海を舞台に「シーカヤック」、「SUP体験」、「係船釣り」、「スノーケリング」の4回の活動を実施しました。評価はAとしました。続いて人材の育成です。自発的にボランティアとしての資質や能力を高めようとする中学生が町内事業所等でボランティア活動を行いました。なお活動時間が20時間を超えた13人、内訳として3年生9人、2年生3人、足し算が合わないですね。また確認します。生徒が静岡県青少年指導者級別認定を受けました。評価はAとしました。続いて啓発活動の充実です。町内の小学1年から中学3年までの児童生徒を対象に、挨拶や人を思いやる心の大切さ、非行防止などについての標語を募集し、広報にいいずに優秀作品を掲載しました。また、広報にいいずに、静岡県青少年の非行被害防止強調月間のPRなどを掲載し、子どもたちをインターネット利用における犯罪被害等から守るための啓発活動を行いました。評価は、Aとしました。

教 育 長：続けて（3）をお願いします。

萩 原：学校教育係です。小項目、学校体育部活動の充実をAとさせていただきました。学校体育や部活動の充実を図るため、静岡県内で開催される大会や、練習試合への参加に係る派遣費を補助するとともに、スクールバスを活用した移動支援を実施しました。これにより生徒が積極的に活動へ参加できる環境づくりを進めるとともに、保護者の送迎負担の軽減を図ることができました。続いて、安全な給食の提供です。評価はAとさせていただきました。衛生管理マニュアルに基づき、給食センターにおける衛生管理の徹底に努め、安全安心な給食の提供を行いました。また、食物アレルギーのある児童生徒に対しては、給食センターの設備や運営体制の範囲内で除去食などの対応を行いました。安全性に配慮した給食の提供に努めることができました。続いて、魅力ある給食の提供と食育の推進です。評価はAとさせていただきました。食育及び地産地消の推進を図るため、毎月のふるさと給食の日や、ふるさと給食週間において、町内産県内産の食材や郷土料理を提供し、地域文化や伝統への理解を深める機会を設けました。また、朝食の大切さや正しい箸の持ち方に関する授業の実施や給食調理工程を動画で配信するなど、食に関する知識や関心を高める取り組みを行いました。さらに、給食費の無償化を継続して実施し、物価高騰が続く中においても、保護者の経済的負担の軽減を図ることができました。続いて、基本的生活習慣の確立です。評価のほうはAとさせていただきました。各学校において、挨拶や時間を守ること、バランスのよい食事をとることなど、基本的生活習慣の確立に向けた指導を継続的に行いました。子どもたちに具体的な目標を示しながら指導することで、規則正しい生活習慣や望ましい生活態度の定着を図ることができました。続きまして、防災教育の推進です。評価はAとさせていただきました。西伊豆中学校での災害図上訓練DIGや避難所運営ゲームHUG、各小学校での防災カルタや防災サバイバル講座、静岡県防災アプリを活用した講座、各園での防災ダックや職員を対象としたDIGの実施など、それぞれが各種防災講座を実施するとともに、仁科小学校と仁科認定こども園による合同引渡し訓練や、西伊豆中学校と賀茂小学校による合同避難訓練など、地域の実情の把握や災害時の対応について、防災意識の向上と防災教育の推進を図りました。続いて、安全安心な環境づくりです。評価はAとさせていただきました。緊急連絡システム「すぐーる」を活用し、保護者への迅速な情報提供やアンケートの実施、不審者情報、発生時の注意喚起を行うなど、安全安心な情報伝達体制の充実を図りました。各学校において施設や遊具の定期的な安全点検を実施し、必要に応じた修理や撤去を行うことで、安全な

教育環境の維持に努めました。さらに、賀茂小学校では、放課後学習支援員や遊び見守りボランティアの協力を得て、放課後の子供の居場所づくりを推進し、安心して過ごせる環境の充実を図ることができました。

教 育 長：はい、ありがとうございました。

(2) 及び (3) についてのご意見ご質問等ありましたらお願いします。

高 橋：文言も言い回しでいい。

教 育 長：はい。お願いします。

高 橋：地域環境づくりの推進で、4 ページの中段、青少協を設置し、2 回の会議を開催しましたけど、これって昔からやってるね。これ毎年設置することになってる。それと継続、その都度、年度初めに設置して、年 2 回開催すると決めるの。

齋 藤：委員さんは 2 年ですが、任期が変わることになる方もいらっしゃることもあることと、青少協自体はですね、毎年です。

高 橋：PTA の関係があるか、だから新メンバーで設置し、そういうことだね。わかりました。協議会自体はあるけども、内容が変わるんで、その都度ということか、わかりました。

教 育 長：はい、よろしいですか。

長 島：今の下の、青少年活動の推進なんですけど、昨年度からは宇久須キャンプ場のキャンプサイトテント、18 人の児童が参加しました。ということは、一つ前の年ですから、今年度は 20 人の募集に対して 26 人の募集で抽せんとなるほど人気でしたってことは、2 年ずれです、違う年の話ですか。

佐 野：令和 6 年度が 18 人、令和 7 年度が 26 人です。

長 島：令和 6 年度、やってるんですよね。報告がなかったんですか。要は、昨年のお話なので、その一つ前の話は、やってるからいいんじゃないかな。読みながら、これどっちの話かなあとちょっと思ひ、ちょっと紛らわしいかなということですよ。

教 育 長：18 人の参加を削るか、もしくは、6 年度は 18 人だったけど、7 年度は 20 人になったっていうふうには、そこら辺を書き直し、どちらかの修正を入れるということで、お願いします。

佐 野：年度で書いたほうが分かりやすいですかね。

長 島：確かに、それは統一していただいたほうが分かればいいです。

佐 野：数字で入れるっていうような形でします。

教 育 長：よろしいですか。はい。先に進ませてもらいます。それでは 5、6 ページの中項目 (4) について説明をお願いします。

萩 原：(4) 教育環境の整備と教職員の資質向上になります。小項目、学校等の再編です。評価は A とさせていただきます。認定こども園の建設候補地選定について両園の PTA から令和 6 年度 11 月、防災シェルターの導入及びこども園建設に関わる切土調査についての要望書が提出され、令和 7 年 3 月に伊豆海認定こども園にシェルター 2 基の設置が完了し、その後、仁科認定こども園に令和 7 年 11 月にシェルター 3 基の設置が完了しました。認定こども園建設に関わる切土調査（旧西伊豆中の裏山を切土する）業務については、調査結果を議会に説明し、その後、議会から認定こども園候補地選定について、切土案、盛土案、ピロティ構造案の概算費用の要請があり、補正予算第 7 号にて認定こども園候補地選定に係る比較検討概算金額算出業務の予算を上程し、業務を発注しました。新たな動きとして、中学校の統合に関して、松崎町との組合立に向けた検討をする中学校統合推進協議会を発足し、令和 8 年

2月16日に第1回、松崎町・西伊豆町中学校統合推進協議会を開催しました。次の6ページをお願いします。小項目、老朽施設の修繕整備、評価はAとさせていただきました。老朽化した施設の改修修繕を計画的に実施し、仁科認定こども園では、受電設備微量PCB含有機器取替工事、仁科小学校では、校庭フェンス改修工事、西伊豆中学校では、体育館照明LED化工事、体育館トイレ改修工事及び特別教室空調設備設置工事を行いました。また、田子給食センターでは、搬入口改修工事を実施しました。これらの整備により、施設の安全性や教育環境の向上を図ることができました。今後も児童生徒の安全確保を最優先に計画的な改修及び修繕を進めていきます。続いて、高等学校生徒等への通学支援です。評価はAとさせていただきました。引き続きになりますが、高等学校等へ通学する生徒の保護者に対して、通学費の一部助成を実施し、教育に係る経済的負担の軽減を図りました。また、令和元年度から利用者が助成額を差し引いた金額で定期券を購入できるようにしており、申請手の簡素化と利便性の向上を図りました。これらの取り組みにより保護者の経済的負担の軽減と制度利用者の利便性向上に寄与することができました。続いて、特別支援教育の推進と連携です。評価はAとさせていただきました。特別な支援を必要とする子供に対し、幼児期から中学校まで切れ目のない支援を行うため、特別支援教育巡回相談員による巡回相談を町内の園・学校で延べ18回実施しました。また、特別支援教育連携推進協議会において、園・学校の具体的な取り組みについて情報交換を行い、関係機関の連携強化を図りました。さらに、昨年度に引き続き、園・学校へ特別支援員を配置し、一人一人の教育的ニーズに応じた支援体制の充実に努めました。続いて、児童生徒の心のケア、教職員の指導充実にとなります。こちらでも評価をAとさせていただきました。不登校児童生徒に対しては、教職員、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーが連携し、保護者も含めた継続的な支援を行うことで、学校復帰や社会的自立に向けた支援の充実に努めました。また、田子公民館内に開設している教育支援センターをお願いします。教育支援センターにおいても、学校と連携しながら、学校とは異なる視点による支援を行い、一人一人の状況に応じたきめ細かな対応に努めました。いじめ問題については、各校から毎月提出される報告により状況把握に努めるとともに、いじめ問題対策連絡協議会を開催し、いじめの現状や方策について協議するなど、未然防止及び早期発見・早期対応に向けた取組を推進しました。続きまして、教職員の資質向上対策です。評価はAとさせていただきました。引き続きとなりますが、賀茂地区5町で3人の指導主事を共同設置するとともに、下田市及び静岡県の指導主事を加えた広域連携体制により、学校訪問や各種研修を実施し、教職員の資質向上を図ることができました。また、共同設置した指導主事3人のうち1人を西伊豆町・松崎町教育委員会事務局に配置し、学校やこども園の指導助言体制の充実に努めました。以上です。

教 育 長：はい、（4）についてご質問、ご意見等ありましたらお願いします。
よろしいですか。

それでは、6、7ページ、中項目（5）についての説明をお願いします。

齋 藤：中項目（5）、生きがい・潤いのある生活を育む文化芸術の振興についてです。小項目、生涯学習の充実について、評価は、Aとさせていただきました。生涯学習は、子どもから大人まで多岐にわたり、その要望も多様であるため、町民のニーズに応えるための施設整備や事業選定には難しい面があります。そこで毎月発行の広報にしいずに生涯学習事業や新刊図書を紹介のほか、体育スポーツ及び文化団体の活動内容などを掲載し、会員や参加者の増加に

努めましたが、会員は減少を続け、参加者はほぼ横ばいの状態となっております。また、各種事業を行った際は、事業の評価シート及びアンケート調査を作成した上で、事業の検証をしました。次に、社会教育施設の整備です。評価はBとしました。社会教育施設は、住民の学習活動の拠点となる施設であり、多様化するニーズに対応した整備や改修が必要となっております。各施設ともに老朽化が進み、不具合の生じた設備の緊急修繕や消防法に基づく立入り検査で指摘された設備の改善などの応急的な維持管理に予算の大半を費やしてございます。今後は利用実績等を考慮した上で、長寿化や廃止等を含めた管理をするため、個別施設計画の見直しを行います。次に、芸術文化活動の推進です。評価はAとしています。各地域で行われている伝統行事に対し、昨年度の活動支援補助交付団体が4団体から6団体に増加しました。増加しましたが各地区において、高齢化や人口減少による後継者不足による団体存続危機は継続しております。

7ページをご覧ください。芸術文化団体の育成支援、評価はAとさせていただきました。町文化協会が主催する活動への補助及び事務的支援を行いました。昨年度に引き続き文化展の開催のほか、音楽芸能発表会を開催し、コーラス、大正琴、舞踊、カラオケが参加し盛大に行われました。文化協会は各部講座を開催するなど、新たな会員確保に進めております。高齢化により文化事業に協力できないという理由で、1団体、俳句の会が脱退しましたが、新しく木管楽器の1団体であるラルゴの風が増えるなど、教育委員会としては、引き続き会員の確保に向けた支援をします。次に文化イベントの充実です。評価は、Aとさせていただきました。文化講演会は、社会福祉協議会が主催する社会福祉大会と合同で実施し、講師として、落語家の林家喜久蔵氏から「笑うが一番」というテーマに多目的ホールで講演をいただき、ほぼ満席の約150人の町民が来場し、大変好評を頂きました。また、文化協会主催の文化展及び音楽芸能発表会は、昨年度同様に開催し、来場者はそれぞれ988人、160人と昨年度より大幅に増えました。子ども演劇鑑賞教室ですが、町内2小学校持ち回りで実施しまして仁科小学校において計画どおりすることができました。図書館利用の促進です。評価はAしました。図書館利用促進と読書活動の普及のため、館内ポップの工夫や特設コーナーの設置などを行いました。また、利用者の利便性向上を図るため、ボランティアスタッフ2名の協力をいただきながら、昼休みの平日開館を実施しました。昼休み時間の利用者数は260人で、昼休みの利用率は平均で約5%でした。なお、令和7年度の貸出し冊数は7,907冊で、令和6年度8,871冊と比べ964冊の減となりました。また、読み聞かせ会は、一昨年6月から毎月1回開催してございます。話題となっている図書や新刊図書を定期的に購入し、図書資料の充実を図りながら、令和7年度末現在、2万3,703冊の蔵書を管理しております。また、年に1回蔵書整理を行い、図書の入替えをしながら、保存期限が過ぎた雑誌や古本等は、広報にしいずに掲載して、欲しい方に譲りました。他市町の図書館と情報交換を行うとともに、図書等の相互貸借により、利用者の利便性向上にも努めました。姉妹町との交流促進についてです。評価はAとさせていただきます。令和7年度は、文化協会、女性会、スポーツ少年団及び5年生交流を開催することができました。体育協会については、会員の縮小および高齢化等により、富士見町側の受入れができないということで、交流することはできませんでした。

教 育 長：(5)について、ご質問がありましたらお願いします。

高 橋：社会教育施設の整備というのは、これ毎年のように言っているけど、B評価になるんでね。

結局、老朽化しても対応ができないとか、利用者が少ないとか、そういう形で、縮小してるわけだよね。そうするとこれ、点検、実際、自分たちでやってるものに対して評価するわけだから、これはBということで、ちゃんと管理しているのに、器具とか、施設問題でなる。一生懸命やってるのに、そういうものが壊れていくとかね、古くなって使えなくなっていく、自分たちの違う部分で発生するわけだよな。自分たち一生懸命やるが、こわれてこうなるんだよね。そこを何か、その中でこういうふうな取り組みをしてるとかっていうのがあれば、それをちゃんとやってるってことになれば、評価はAになるし、その書き方というか、BはBでもいいんだろうけどね。

教 育 長：そのほかいかがでしょう。よろしいですか。はい。それでは7、8ページ、中項目（6）について説明をお願いします。

齋 藤：（6）健康な生活を育む生涯スポーツ振興について。小項目、スポーツレクリエーション活動の充実について。評価をAとさせていただきます。地区対抗球技大会は、昨年に引き続き、ワンタッチバレーボールを種目として開催し、11チーム159人の参加登録がありました。スポーツ委員会では、次年度以降もワンタッチバレーボールで地区の交流を行っていくこととしています。令和6年度に中止となった、西伊豆町夕陽の郷マラソン大会に替わる新規事業として、軽スポーツオリンピックと称した多種目の軽スポーツ大会を実施し、13チーム49名の参加がありました。軽スポーツ教室については、春は軽スポーツ大会のトライアルを実施し、秋は昨年度に引き続き、パラリンピックの正式種目で誰でも参加しやすい、ボッチャを取り入れ実施をしました。協定を締結している県内プロスポーツチームおよび大学と連携し、スポーツ合宿誘致や町内の小中学生を対象としたスポーツ教室を開催しました。また、助成金を活用し、県内で開催されたプロスポーツ公式戦を西伊豆町PR冠試合として実施したり、そして、町民向けに大型バスによるスポーツ観戦ツアーを実施しました。スポーツ施設の整備充実についてです。評価は、Bとさせていただきます。各スポーツ施設で不具合が生じた設備の緊急修繕や消防法に基づく立入り検査で指摘されている改善などを行い、安心して利用できるよう努めました。各施設とも利用者が比較的多いことから、施設の整備や充実を図りたいところですが、老朽化が著しく、維持管理に苦慮しているのが現状です。社会教育施設同様、今後は利用実績等を考慮した上で、長寿命化や廃止等を含めて管理するため、個別施設計画の見直しを行います。次のページ8ページをご覧ください。指導者の育成確保についてです。評価はBとさせていただきます。スポーツ少年団では運営する際に認定員等の有資格者が必要となります。令和7年度現在、1団体で指導者2人が有資格者となっています。有資格者の育成・確保という面においては、活動できている団体がバレーボール1団体となっており、大変厳しい状況となっています。今年度においては団員確保のため、団員募集チラシを作成し、町内小学校及び教育委員会にて周知しました。今後、松崎町と連携を取りながら、子供のスポーツについて取り組んでいく必要があると考えます。また、スポーツの指導者の掘り起こしが必要となりますが、人口減少と高齢化に伴い、人材確保が課題となっております。組織体制の整備ですが、こちらについては、評価をAとさせていただきます。スポーツ推進委員等各団体は予定した事業を全て行うことができました。各団体とも町の行事等に積極的に参加協力し相互連携を図っています。交流推進体制の整備・支援です。評価は、Aとさせていただきます。体育協会主催のしずおかスポーツフェスティバルは、前年同様ボッチャを種目として開催し、20チーム募集のところ、一般や小学生の18チ

一ム年の応募があり、55 人の参加がございました。また、体育協会に加入している 12 団体に対し、大会開催等による活動補助を行いました。

教 育 長：はい。ありがとうございました。

(6) について、ご質問がありましたらお願いします。

長 島：意見と言いますか。(6) の 1 番、最初のスポーツレクリエーション活動、個人的な意見なんですけど、すごく頑張ってると思います。ほかの仕事があって、毎年のことがあるかと思うんですけど、うちの子供がバスケットやったこともありまして、いろいろなプロの選手なんかがあって、評価されづらいんですけど、すごいことやってるなと思います。ほかの町の人とか、すごく羨ましくされたりして、すごく頑張ってる、評価はAの上のSぐらいいいのかな、頑張ってるなどの意見です。

教 育 長：はい、ありがとうございます。数字としてはね、希望としてはAですけど、そうやって、認めていただける方が増えれば、係のほうも本当にやりがいをもって、より一層励みになるかなと思います。ありがとうございます。

その他いかがでしょうか。それではですね、はじめ 1 時間 10 分ほどたちましたので、ここで 10 分間休憩を入れたいと思います。うろの時計で 35 分から再開したいと思います。休憩をお願いします。

教 育 長：それでは再開したいと思います。8 ページ、中項目 (7) について説明をお願いします。

齋 藤：(7) 地域の誇り、郷土の愛着を育む学習・文化財保護についてです。小項目、学校と地域の融合促進についてです。評価はAとさせていただきます。地域人材へ活用し、子供たちの郷土愛と地域とのつながりを育むため、わくわく体験村実行委員会に委託しまして海の体験活動を実施しました。また、地元遊漁船組合の協力のもと、ツツテ西伊豆を活用した小学生向けの教育事業として、親子漁師体験を開催しました。文化財の保護・保存についてです。こちらも評価は、Aとさせていただきます。文化財保護法に基づき、県教育委員会と連携しながら、名勝伊豆西南海岸の景観保護に努めました。現状変更申請としましては 20 件、期間変更届 2 件、許可通知 21 件、終了届 20 件です。文化財等の活用についてです。評価はAとさせていただきます。民族文化財等の貴重な財産を町民に知ってもらうため、今年度の文化財展示会を開催しました。昨年度に引き続き、県の無形民俗文化財に登録されている人形三番叟を紹介する部屋を設けたほか、県の有形文化財に指定されている宇久須神社の釣灯笼の展示を実施しました。来場者は昨年度の倍近くで過去最高の 364 人でした。文化財保護思想の普及についてです。評価はAとさせていただきます。旧田子中学校に展示してある民俗文化財等の整理を進め、11 月の文化財保護強調週間中に展示会を開催し、町民の文化財への関心を深めました。また、町内小学校を対象に社会科見学を実施し、子供たちに昔の町の様子を知ってもらう良い機会を提供できました。男女共同参画への意識改革についてです。こちらは、B評価としました。令和 5 年度に西伊豆町男女共同参画推進プランの見直しを行い、令和 10 年度までの 5 年計画を策定しました。具体的な行動としましては、6 月末の男女共同参画週間について、広報にしいずへ記事を掲載し啓発に努めましたが、今後は計画の推進に向けた庁内の担当部署間の密な連携を図りたいと思います。女性団体への支援・育成についてです。こちらはBの評価としておりました。女性会への活動に対する補助及び支援を行いました。また、令和 7 年度は、女性会の姉妹町交流として、富士見町へ 20 人の代表者が

訪問し、情報交換を行いました。しかし、団体の高齢化や役員を引受けてくれる人が見つからず、令和7年度をもって両団体の解散が決定しました。

教 育 長：はい、ありがとうございます。

(7)について、ご質問がありましたらお願いします。

よろしいですか。

高 橋：男女参画の問題は実はそうなんだよね。去年も特に思ったんだよね。このBでいいと思うんだけど、言い回しが、今後は、計画の推進に向けた庁内の担当部署間の密な連携を、さらに図りたい、これだと、今まで全然されてないみたい、今後も、密な連携をさらに図りたいほうが、わかりやすい。

佐 野：今後も計画の推進に向けた連携でね。

教 育 長：はい。これまでも、そのようなことをやっているが、より密なものにしていきたいと読んで分かるような文書でよろしくをお願いします。修正をお願いします。そのほかはどうでしょうか。

長 島：1番最後の女性団体支援育成なんですけども、もう無くなってしまったんです。もうこれ、今後どうするんですか。

齋 藤：女性会としてはゼロになったんですが、仁科の今までやった方って有志を募って、一応、団体としてやってくって言ってました。ただ会としてはないので、町で今やってる女性会の充て職はないですけど、この項目から外さざるを得ないのかなって感じがしますね。

山 本：地域の活動には参加するけど、町がやるイベントなんかで女性会として協力していたものはもうできなくなりますっていうことらしいですね。

教 育 長：先に進ませてもらいます。9ページ中項目(8)について説明をお願いします。

萩 原：小項目になります。幼児期における子育て支援です。評価はAとさせていただきました。子育て支援センターでは、育児や家庭環境に対する不安や悩みを抱える保護者が増え、相談内容も多様化している中、子育て支援センターを開所している意義は非常に大きく2施設で年間延べ482日開所し、1,480人の利用がありました。土曜日は隔週で開所していましたが、利用者がほぼいない状態であったため、事前告知の上、5月から事前予約制で開所することとしました。このことにより職員の負担軽減を図ることができました。少子化と保育料無償化に伴う入園の早期化により、対象児童が減っていることから、昨年度に比べ利用者が4人減少している状況です。子育て支援センターでは、毎月開催する会議の中で様々な意見交換を行い、子育て支援の早期対応に心がけたほか、町内全ての未就園児の把握に努め、家庭訪問や手紙に加え、LINEを活用して情報提供するなど、利用促進を図っています。また、こども園においては、特別支援コーディネーターの配置を行い、発育などの相談窓口となっているほか、町の巡回相談員の子育てアドバイスのコラムを園だよりに掲載するなど、子育て支援につなげる取組も実施しています。続いて、小学校における子育て支援です。評価はAとさせていただきました。仁科小学校において、放課後児童クラブを290日開所し、多くの児童を受入れました。学童保育時間が長く、人数も増える長期休業中には支援員を3人体制とし、見守りや支援を必要とする児童にも対応しました。登録人数は37人、仁科小学校27人、賀茂小学校10人で延べ2,687人の利用がありました。土曜日や長期休業期間も含めた平均利用人数は6.71人となり、1日当たりの最大利用人数は、平日で15人、長期休業期間は

24 人でした。賀茂小学校区への設置要望もありますが、人員確保スペースの問題もあり、設置は難しい状況にあります。このような状況を踏まえて賀茂小学校の児童も利用しやすくなるように送迎車を運行しました。また月に 1 度、支援員会議で情報共有を行い、利用しやすい児童クラブの運営を心がけました。以上です。

教 育 長：（8）について、ご質問、ご意見ありましたらお願いします。

高 橋：放課後児童クラブって有料だっけ、無料にならない。

給食費が国からくる分、600 いくら浮くでしょ。

萩 原：給食費の補助と児童クラブの利用料は別として、考えてはおります。

児童クラブは、それを利用したい人、児童全員ではないので。

教 育 長：金額的には、高くないんでしょう。

萩 原：そうですね。1 日 300 円ぐらいのですね。あとは单身のご家庭は、減免っていうのもあります。

山 本：無償にしたら、あふれてしまいます。

教 育 長：結構、浸透してきて、仁科は、低学年は入っているでしょ。

萩 原：そうですね、今年度で言えば、1、2 年生がほぼほぼ入っています。

教 育 長：よろしいですか。はい。それでは、自己点検全体評価について、説明をお願いします。

佐 野：10 ページ目をご覧ください。

自己点検全体評価です。令和 7 年度西伊豆町教育委員会の自己点検につきまして、次のとおり報告します。1、教育委員会の活動、定例会においては、活発な意見交換や情報共有が図られるとともに、議案の円滑な審議が行われ、引き続き良好な委員会運営が図られました。また、総合教育会議では、町教育行政の課題について首長と率直な意見交換が行われ、相互理解と共通認識が図られました。2、教育委員会が管理執行する事務、事務処理については、漏れや遅滞がないように心がけており、適正に処理できたと考えています。3、教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務、西伊豆町教育大綱及び西伊豆町教育行政の基本方針に基づき、事務事業を執行しました。認定こども園の避難対策として、仁科認定こども園に防災シェルター 3 基を設置することができ、避難手段の選択肢が増えました。認定こども園建設に関わる切土調査(旧西伊豆中の裏山を切土する)業務については、調査結果を議会に説明し、その後、議会から認定こども園候補地選定について、切土案、盛土案、ピロティ構造案の概算費用算出の要請があり、補正予算第 7 号に、認定こども園候補地選定に係る比較検討概算金額算出業務の予算を上程し業務を発注しました。また、中学校については、松崎町との組合立に向けた検討をする中学校統合推進協議会を発足しました。学校教育関連では、給食費の全額を補助、高校生通学費助成や松崎高校給付型奨励金の支給など、子供の教育に係る保護者の経済的な負担を軽減するための施策に取組ました。また、1 人 1 台のタブレット端末を活用し、小中学校での I C T 機器を活用した学習の充実を図りました。令和 7 年度末には、タブレット端末からクロームブックへの端末の入れ替えを行いました。入れ替えにあたり、教職員への研修会を実施しました。中学校を対象とした国際交流事業は、令和 6 年度から台湾との交流事業を復活し、令和 7 年度は、中学生 9 人が、台湾高雄市のホストファミリー宅で 2 泊 3 日のホームステイを経験しました。最終日には福誠高級中学校で授業体験を実施しました。帰国後は校内発表を開催し、生徒にとって大変有意義な事業を展開

できました。子育て支援、防災教育、不登校対策、複式学級対策、特色ある教育の推進などの西伊豆町独自の事業推進にも、引き続き積極的に取り組みました。社会教育関連では、既存事業を検証しながら、より効果的な事業となるように改善を図るとともに、町民まち歩き、わくわく体験村、わんぱくクラブ、親子漁師体験、文化講演会など各種事業を実施しました。そのような中、夕陽の郷マラソン大会に替わる事業として、多種目の軽スポーツを集めたオリンピック的な大会を開催し、好評を得ました。また、協定を締結している県内プロスポーツチーム及び大学と連携し、スポーツ合宿誘致や、町内の小中学生を対象としたプロスポーツ教室を開催する取り組みました。文化財保護審議会では、昨年度に引き続き、旧田子中学校において文化財展示会を開催し、文化財の積極的な活用を図るとともに、町民の文化財への関心を深めました。過去最高の364人の来場者があり、大変好評な意見を多数いただき、次年度につながる取組となりました。次のページをお願いします。11ページです。課題としては、少子化、高齢化が急激に進む中で、各種年齢層のニーズをしっかりと把握し、新たな事業展開を模索する必要があると考えています。また、当町が直面する様々な課題への柔軟な対応も不可欠ですが、限られた予算の名の中で、より教育効果を高めるための工夫改善を図る必要があると考えています。全体としまして、認定こども園の移転については、大きな進展を見ることはできませんでしたが、仁科認定こども園への防災シェルターを設置することができ、一定の成果を上げられたと考えています。引き続き、これからの認定こども園、小中学校の在り方について、将来を見通した西伊豆町の教育の在り方を検討していきます。以上です。

教 育 長：はい。それでは自己点検評価全体について、ご意見、ご質問等ありましたらお願いします。特別ないですか。では、全体を通していかがでしょうか。

佐 野：説明させてください。12ページお願いいたします。評価委員による意見をですね、予定しております。ご覧のとおりですね。4人ほどの方をお願いしたいと思っております。学識経験者2人ということで斎藤良久さん、長島田鶴子さん、保護者代表としまして、藤井美貴さん。校長代表、学校が誤っておりまして、仁科小学校校長になります。清水憲司先生になります。意見はですね、全体意見、それから教育委員会の活動、それから教育委員会の管理執行の事務、それから教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務についての意見をさせていただくというふうな形になっております。開催日は、6月末日の予定でおります。以上です。

教 育 長：それでは特にご意見ないようでしたら、指摘事項を修正の上、教育委員会評価委員会に諮っていただきたいと思います。本日の議事案件は、全て終了いたしました。以上をもって、令和8年度第3回の定例会を終了いたします。皆様お疲れさまでした。